



JAMCA ニュース

No.73

2012年4月1日

発行
協会事務局

編集事務局

全国自動車大学校・整備専門学校協会
 〒160-0015 東京都新宿区大塚町 31
 ヴィップ新宿御苑 ☎ 03-3356-7066
 〒125-0002 東京都葛飾区西亀有 3-28-3
 ☎ 03-3601-2535 FAX 03-3601-2988
 ホームページアドレス <http://www.jamca.jp/>

自動車整備を取り巻く環境の変化と人材育成

国土交通省自動車局整備課長

島 雅之

自動車の進化と変化

近年、自動車は、より高い環境・安全性能や快適性が求められるなか、構造装置のエレクトロニクス化に加えて、ハイブリッド車や電気自動車等の次世代自動車が出現・普及しつつあります。また、衝突被害軽減ブレーキをはじめとする先進安全技術の導入や通信技術を活用した装置の研究開発が進むなど、自動車の技術は目覚ましく進化しています。一方、最近の自動車の使用状況を見てみれば、昨年3月末の乗用車の平均使用年数、すなわち、新車が新規登録されてから抹消登録されるまでの期間の平均年数は12.43年となっており、10年前の平成13年の10.40年から約2年、車検期間1回分延びており、自動車の長期使用化が急速に進展していることが伺えます。

これらの自動車の進化や変化に対応して、整備分野をはじめとする技術力をもった優秀な人材が益々求められる時代となっていますが、少子高齢化社会の到来、若者のクルマ離れ等の社会変化を受けて、後継者のなり手がいない等整備業界を取り巻く現状は厳しい実態にあります。

これからの保守管理と求められる人材

こうした状況の中、ユーザーとのコミュニケーション能力はもとより、



高い技術力を有する人材を育成・輩出するため、若者のクルマへの関心を高め、いかに自動車に情熱をもつ人材を集め、その技術力を習得させていくかを関係者が考え実行していく時がきていると思います。

このため、国土交通省では、まず、次世代自動車等の高度な電子制御技術や新技術への点検整備に対応していく環境を整備することを目的に、従来から一級整備士制度の活用や整備主任者研修等を通じて整備技術のスキルアップを図っていますが、今後はOBD（車載故障診断装置）を活用するなど高度な整備技術が必要となることも踏まえて、昨年、「自動車整備技術の高度化検討会」を立ち上げ、汎用型スキャンツールの普及促進に加え、整備士の養成段階を含め、自動車の進化や変化に対応した総合的な人材育成のあり方やその具体的方策に

ついて検討をはじめしているところであります。

さらに、自動車の長期使用化や次世代自動車等の導入等、自動車を取り巻く環境の変化に対応するため、昨年、「使用過程車の保守管理に関する調査分析検討会」を立ち上げ、今後の時代に求められる保守管理の方法等そのあり方を検討する上で有効と考えられる情報の収集・分析も開始したところであります。

今後もこのような取組みを契機として、関係者の知見やアイデアを結集し、人材確保・育成という重要課題に取り組んで参りたいと考えております。

全国自動車大学校・整備専門学校協会の皆様におかれましては、こうした自動車や技術の変化に適応した優れた人材を引き続き輩出していただくとともに、人材の確保や育成に向けた取り組みを関係者で共有していくことを期待するものであります。

CONTENTS

- 2面 自動車における ASR
リサイクルの動向について
- 3面 我が校自慢
- 4面・5面 低燃費技術の進歩と
今後の方向性
- 6面 協会トピックス
- 7面 活躍!! 卒業生・地区通信
- 8面 私の教材活用・お知らせ・
編集後記